

# 「神仏習合」

平成二十七年一月二十七日  
五泉市永谷寺副 吉原東玄

昨日は宗祖、道元禪師さまの降誕会である。紀元一二〇〇年（正治二年）一月二十六日（旧暦では一月二日）に山城国（現京都）にて誕生される。

○日本の文化　　く宗教儀礼としてのく

年末年始に詣<sup>もう</sup>で出<sup>い</sup>で、盆淵<sup>ほんぶち</sup>お寺に参拝し

「神仏習合」とは…

日本古来の神と外来宗教である仏教とを結びつけた信仰のこと。すでに奈良時代から寺院に神がまつられたり、神社に神宮寺が建てられたりした。平安時代頃からは本格的な本地垂迹説が流行し、中世になって西部神道などが成立した。

「本地垂迹（ほんじすいじゃく）」とは

本地垂迹とは、仏教が興隆した時代に発生した神仏習合思想の一つで、日本の八百万の神々は、実は様々な仏（菩薩や天部なども含む）が化身として日本の地に現れた権現（ごんげん）であるとする考えである。

【お参りおもしろ川柳】

○ 賽銭に億万倍の願を掛け

○ ~~神さま~~に祈る間も減る命

長生き

神社仏閣へ行き、お賽銭を入れ、お願いすることはただ一つ…

「良き縁に巡り合わせて頂きますように。」